

## 第1回阿賀野川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時： 平成26年12月1日（月）13:45～17:00（※13:45～15:40 現地視察）  
場 所： 阿賀野川河川事務所 2階会議室

### 【議事次第】

1. 開会
2. 議事
  - ・ 阿賀川自然再生モニタリング検討会 設立主旨について
  - ・ 阿賀川自然再生モニタリング検討会 規約について
  - ・ 阿賀野川自然再生の現状と今後の取り組みについて（報告）
  - ・ その他
3. 閉会

### 【議事】

#### （1）設立主旨、規約について

特に意見なし。規約は、平成26年12月1日より施行する。

#### （2）モニタリングについて

- ・ モニタリングは、整備形状だけに着目するのではなく、再生の目的・期待する機能に対して、モニタリング計画を立案すること。

#### （3）ワンドについて（共通）

- ①自然再生の設計では、横断形状と平面形状の両方を考慮し設計することが重要であり、その際、ワンドの規模感を意識しておく必要がある。
- ②定期的に、定点撮影やUAV（無人飛行機）からの写真撮影を行い、形状や植生をモニタリングするとよい。
- ③UAVに、赤外線カメラを搭載すれば、水温や植生の判定が可能となり有用である。
- ④植生のモニタリング方法については、植生図や模式図だけだと、適切な評価ができない。植物の種類がどの様に変遷しているのか、貴重種が出てくるのかなど、何が重要なのかを検討してモニタリング計画を設定してほしい。
- ⑤施工途中でも見せてもらって、関係者の意見を反映させながら施工してほしい。
- ⑥ワンドでは、溶存酸素や、魚類の生息に重要なミクリなどの水草の生育をモニタリングしてはどうか。
- ⑦モニタリング結果を、今後のワンド再生に活かしていくならば、植生や魚類の影響評価が重要である。
- ⑧早出川の県管理区間のところには、いいワンドが沢山ある。早出川で見られる本来のワンドをモデルにしたらどうか。

#### (4) 焼山地区ワンド再生について

- ①ワンド下流の水路を広げて、水の出入りをよくしないと流木が入ってしまう恐れがある。
- ②鉄分について、横越地区の新横雲橋付近でも赤水が見られる。溶存酸素が少ないと魚が寄ってこないかも知れない。また、魚には水草が重要である。カナダモ（外来種）が入ってくるかも知れない。ミクリなどの水草をモニタリングしていくべきではないか。
- ③阿賀野川のイトヨは「日本海型イトヨ」といって、普通のイトヨとは違う種類である。イトヨには湧水と水草が重要で、焼山地区が幼魚の生息場所や出水時の避難場になるか注目したい。
- ④水面が形成されたことで、鳥類のバンやヨシゴイ等の生息場となるものと期待される。

#### (5) 満願寺地区河道掘削箇所のたまりについて

- ・たまりの評価では、水位が上昇し本川と繋がった時にどのような変化が生じているのか、また、繋がる時期は生物にとって意味のある時期なのかといった、形ではなくて機能を評価することが重要である。

#### (6) 高山地区ワンド再生について

- ①緩やかなスロープ（5割程度）があると、子供たちが水遊びしやすいと思う。
- ②水際は本来計画書どおりの緩やかな勾配が望ましい。何のためのワンドか、目的を常に意識すること。
- ③モニタリングでは、事前調査で確認された魚種が、今後どう変化するかに着目するとよい。

#### (7) 論瀨地区ワンド再生について

- ①樹木伐採により重要種の生育が期待できるという観点は重要である。重要種が維持される環境が維持されているかを把握するモニタリングが必要である。

#### (8) 早出川礫河原再生について

- ①捷水路事業では巨石により人工ワンドをつくった。過去の実施内容の整理とその後の状況を把握した上で実験をした方がよい。
- ②砂礫河原ができて、どのような魚が戻ってくるのかを見るのが重要。ミクリのような水草が生えれば魚が戻ってくると思う。
- ③善願橋付近ではカジカが少なくなった。逆に砂を好むヌマチチブが多い。流れの多様化だけでなく、河床材料の多様性も必要ではないか。

以上